



副院長  
鈴木 貴勝

すぎきよしかつ●1994年、昭和大学医学部卒業。同年、昭和大学病院入局。98年、森林公園クリニック院長。2008年、トワーム小江戸病院に勤務。精神保健指定医。



医師  
能登 雅明

のとまさあき●2005年、日本医科大学医学部卒業。08年、日本医科大学付属病院精神神経科。10年、浅井病院精神科。14年よりトワーム小江戸病院に勤務。精神保健指定医、日本精神神経学会認定精神科専門医。

し、立ち上がって車イスにも乗れるようになる。すると褥瘡の軽快にもつながるといった実績が多くあるので、積極的に取り組んでいます」(上田医師)。

検査にも力を入れている。「重度の認知症患者さんは、自覚症状などをうまく説明できません。そのため、認知症とその合併症の治療では、検査がきわめて重要なのです」(渡辺医師)。同院では、核磁気共鳴画像装置「MRI3.0 テスラ」という最新検査機器を導

こうした病院は全国でも珍しいという。

同院の渡辺哲弥院長は、「どんな認知症患者さんでも、安心して入院いただけると思います。当院の医療体制は、認知症の治療に必要なのです」と力説する。認知症患者は、高齢で全身状態が悪く、寝たきりになったり、複数の合併症を抱えたりしている人がほとんど。ところが、重度の認知症患者が、合併症の悪化で入院が必要になった場合、基幹病院でも、徘徊、妄

想といった症状に対応できないため、受け入れが難しい。院長補佐の上田恵介医師は、「認知症専門病院でも、合併症の治療ができないといった理由で、入院できないことがあります」と明かす。

同院は、急性期病院の三愛病院、介護老人保健施設などを展開する医療法人社団松弘会が運営。同理事長の清輝輝久医師は、埼玉県で認知症患者が急増しているのに、受け皿となる医療機関が不足していたため、開院を決心したとい

う。副院長の鈴木貴勝医師は、「介護施設から移ってくる方が多いですが、他院からの転院も目立ちますね」と話す。地域の医療機関からの信頼も厚いことがうかがえる。「認知症でこれだけ手厚い医療体制は、当院だけかもしれません」と上田医師が話す通り、同院では、一人の入院患者に対して医師2名、ドクター秘書2名の合計4名という万全の体制を敷く。転倒による骨折、誤嚥性肺炎、心不全、腸閉塞といったさまざまな合併症をワンストップで治療できる。骨折では「人工骨頭置換術」といった手術、脳梗塞や脳虚血に準じた病態では「高気圧酸素治療」といった最新医療も手がけている。同院でフォローできない症例でも、グループの三愛病院に協力してもらえ



診療科目：精神科、内科、整形外科、外科、脳神経外科、リハビリテーション科、放射線科、循環器外科、心臓リハビリテーション科

病床数：200床  
埼玉県川越市下老袋490-9  
TEL.049-222-8111 (代)  
http://www.towarm.com/coedo/  
入院、外来予約・ご相談は  
TEL.049-222-8123  
(医療福祉相談室)

人工骨頭置換術・経皮的椎体形成術当日歩行の動画がみられます



0.5mmの細い血管を描出でき、小さな動脈瘤の発見が可能

能登医師によれば、認知症患者は、まわりの人から非難されたり、冷たくあしらわれたりすると、ますます自信を失い、それが症状悪化につながるという。「逆に、温かく接してあげると、精神状態が安定して、合併症の治療にもプラスに働くのです」。

そこで、同院で最近、強化しているのが「園芸療法」だ。同院では園芸はお手の物という認知症患者が多い。そうした患者が植物を育てていると、昔の体験が蘇ってくる。さらに、一緒に作業するスタッフに園芸を教えることで、自信を取り戻すケースが多いのだという。そのほか、14匹のセラピー犬が活躍している「ドッグセラピー」、東邦音楽大学と提携した「音楽療法」なども取り入れている。

また、アメニティにもきめ細かく配慮している。病院のエントラ

ンスは訪れた患者を高級感あふれる雰囲気を出迎える。調度品にもこだわり、エントランスにある豪華なシャンデリアは外国製で、バカロヴィッツ社から取り寄せたものだという。外の庭を見渡すと、手入れの行き届いた芝生が広々と広がっている。食事は都内ホテルのグループ会社に委託。季節の食材をふんだんに取り入れ、華やかな彩り、盛り付けなど随所にこだわりがある。また食器はプラスチック製ではなく、温かみのある陶器製の器を採用、無機質になりがちな昔ながらの「病院食」のイメージが覆される。

精神科・内科・外科がタッグ、最新検査機器で隠れた合併症も発見  
認知症と合併症を  
ワンストップで治療する専門病院

医療法人社団松弘会 トワーム小江戸病院



約620発のスターマインが夜空を彩る(2016年は7/16開催)

「認知症患者さんは、身体機能が著しく低下しているので、リハビリには困難が伴います。しかし、嚥下訓練によって食事がとれるようになる」と、身体機能が回復

埼玉県川越市のトワーム小江戸病院は、2008年6月に開院した認知症専門病院だ。精神科、内科のほか、外科、整形外科、脳神経外科、循環器外科など9つの診療科がある。一般の認知症専門病院は、複数の診療科を標榜していても、常勤医は精神科医や神経内科医だけというケースが多い。しかし、同院は、精神科医、内科医に加え、外科系の医師も常駐、チームで認知症とその合併症の集学的治療に当たっているのが特徴だ。

「認知症と合併症の集学的治療に当たっているのが特徴だ。」

「認知症と合併症の集学的治療に当たっているのが特徴だ。」

「認知症と合併症の集学的治療に当たっているのが特徴だ。」



院長  
渡辺 哲弥

わたなべてつや●1965年、日本大学医学部卒業。日本大学医学部附属板橋病院を経て、73年、帝京大学医学部附属病院第一外科講師。77年、板橋中央総合病院外科部長。93年、高島中央総合病院院長。2008年、トワーム熊谷施設長。14年より現職。



院長補佐  
上田 恵介

うえだけいすけ●1976年、東京大学医学部卒業。埼玉医科大学病院を経て、99年、帝京大学医学部心臓血管外科教授。2015年6月より現職。日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本血管外科学会認定心臓血管外科専門医、日本外科学会認定外科専門医。

「認知症と合併症の集学的治療に当たっているのが特徴だ。」

取材／野澤正毅